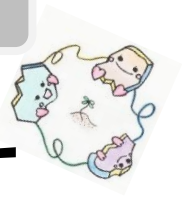
つながろう！ＪＡＰＡＮ～ＰＳＷ
みちのくホットライン@JAPSW 第 48 号



東北復興 PSW にゅうす

東日本大震災復興支援委員会の 2020・2021 年度委員会体制がスタートし、前期委員が引き続き今期も務めてまいります。今期は「発信・検証・発展的収束」を活動テーマに、これまでの取り組みを検証し、これからの復興支援の取り組みについて検討を続けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

（東日本大震災復興支援委員会一同）

東日本大震災復興支援委員会よりごあいさつ

長谷　諭
今年はコロナ禍の影響で本委員会の活動にも様々な影響が生じておりますが、今できることを皆さまとともに考えていきたいと思います。ぜひご意見やご感想をお寄せください。

菅野　直樹
昨今の頻発する災害に関連し、災害フェーズや被災地内外の支援、また事前復興などに当委員会活動が少しでも寄与できればと思っています。今期もよろしくお願いいたします。

菅野　好子
震災から９年。ここ陸前高田市でも当時のことを知らない子ども達にもこの経験を伝えることの意義を感じております。そして、この委員会活動の見える化を今期も模索してまいります。皆さま、どうぞよろしくお願いします。

北村　昇二
前期より引き続き委員を拝命いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響で、様々な制限を強いられる中、不安はありますが、精一杯頑張りたいと思います。

嵐　朋子
引き続き委員を拝命いたしました。委員としてできること、震災を経験した者として伝えるべきことが何かを常に前向きに考えつつ今期も務めさせていただきたいと思います。

菅野　正彦
東日本大震災から９年半が経ち、生活課題はより複雑化しています。様々な災害が起こる中、震災の教訓をいかに残し伝えていくか。多くの構成員の方々と考えていきたいです。

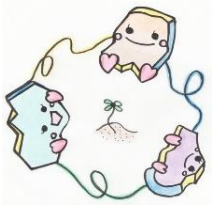
伊藤　亜希子
こんな時代でも、こんな時代だからこそ、各地の声を届けると言う委員会の目的を大切に、皆さんと進んでいきたいと思います。引きつづきよろしくお願いいたします。

伏見　香代
委員をさせていただいて、沢山勉強させていただくことができました。震災 10 年目を迎える地域を見つつ、委員としてできることを考えながら、再び皆さんとご一緒させていただきます。

鴻巣　泰治
今、この時も、復興支援活動に尽力する仲間がいます。被災により生活が一変し苦しんでいる方々がいます。これからも何ができるのか、考え、活動を続けたいと思います。

小淵　恵造
発災から 10 年目を迎える東日本大震災。復興はまだまだ道半ばの状況の中でどのような活動を続けていけばよいか委員会の一員として模索し続けていきたいと思います。

三瓶　芙美
皆さまにお会いできない状況が続きますが、今日も東北の復興や県外避難者の支援は続きます。委員会の活動でいただいたご縁を力に、皆さまと共に復興支“縁”を考え続けます。



委員会マスコット「えんがーる」（“縁がある”）です♪
岩手の「がんちゃん」、宮城の「みやぎん」、福島の「福ちゃん」
「被災地と全国の仲間と末永い縁（ゆかり）が生まれますように」との願いから、岩手県在住の構成員の手により生まれたマスコットです。

～東日本大震災復興支援委員会～

［担当副会長］水野　拓二（静岡県支部）	［委員］嵐　朋子（宮城県支部）	［委員］小淵　恵造（群馬県支部）
［担当理事］長谷　諭（宮城県支部）	［委員］菅野　正彦（福島県支部）	［委員］三瓶　芙美（神奈川県支部）
［委員長］菅野　直樹（福島県支部）	［委員］伊藤　亜希子（福島県支部）	
［委員］菅野　好子（岩手県支部）	［委員］伏見　香代（福島県支部）	
［委員］北村　昇二（岩手県支部）	［委員］鴻巣　泰治（埼玉県支部）	

☆★☆★構成員からお寄せいただきましたメッセージをご紹介します☆★☆

「東北復興 PSW にゅうす第 47 号に寄せて」

鶴　幸一郎（大阪府支部）／社会福祉法人フォレスト倶楽部

東日本大震災・被災地障害者作業所等製品販売事業に関する論稿を拝読し、名前を挙げていただいたので感想を寄せたいと考えました。

2013 年４月に宮城県女川町での勤務をスタートさせ、地域をくまなく回る中、被災され、仮設店舗で運営をされておられた障害者事業所の「きらら女川」と出会ったのです。その時、所長さんから厳しい状況であるお話を伺い、「他の事業所もこんな状況なのだろう。なんとか支援できないか」という想いが募り、そこから一気呵成に被災事業所の物販活動に関する取り組みを始めました。

そして、その活動に意気を感じてくださった PSW 諸氏、協会、石川大会大会長をはじめとする大会運営委員であった構成員の皆さんのご尽力・ご協力が結実した形で、この事業の発端となった活動は、産声を上げることができました。このことは今でも熱く私の胸に刻み込まれており、この紙面をお借りして、あらためて御礼申しあげたいと思います。

その後、復興支援委員会の事業として位置づけられ、委員の皆さまを中心に、全国大会において一度も途切れることなく、この事業が継続されていることに深い感謝と委員の方々の熱意を覚える次第です。

震災から 10 年を迎えようとしている状況にあって、この事業を東日本大震災の被災事業所のみに限定化していることに関しては、私はそれでいいと思っています。後は、どこでどのような形で区切りとするかだと思います。いつかの時点で災害支援体制整備委員会と復興支援委員会を再編し、災害支援に関する統一された委員会が発足し、各地で被災された事業所についての支援のあり方を形作っていかれてはどうかと思います。

2013 年度石川大会での物販の様子

この事業が、災害によって窮地に立たされた事業所やメンバーさん、スタッフの方々が再建の道を歩む際、その背中を支えるあたたかい手や声となるよう、普遍化されることを切に願っております。

☆本紙へのご感想、そして委員会の今後へのご意見、ありがとうございます。心より感謝申しあげます☆

（東日本大震災復興支援委員会一同）

スタッフTシャツの歴史

全国大会での製品販売の際のスタッフＴシャツですが、2013 年度石川大会の際に有志で始まった時から毎年宮城県女川町の(有)マルサンに作成をお願いしています。

マルサンは福祉事業所ではありませんが、被災して大変な状況にある方を応援できたらという鶴氏（当時女川町勤務）の想いから、作成を依頼するに至りました。

こちらで考えたデザイン案をブラッシュアップして素敵に仕上げていただいています。

Ｔシャツを作成していただくことを通して、東日本大震災復興支援委員会の歩みを支えてくださっているのがマルサンです。そんな思いの詰まったＴシャツ、次の全国大会の際にはちょっと気にして見ていただけたら嬉しいです。

（嵐　朋子）

2019 年度愛知大会

2016 年度山口大会

2014 年度埼玉大会

＜委員会検証作業　中間報告＞

～東北復興 PSW にゅうす～

この「にゅうす」は 2012 年９月 15 日に創刊号が発行されました。当時編集にあたられた東日本大震災復興支援本部の小関清之氏（本部長代行）の「**ほんとうはここから必要なことがある。ずっと長く続けること･･･**」で始まる創刊号巻頭メッセージは、今もこの委員会の活動理念に引き継がれています。

年間６回発行し今号で 48 号目となりました。初期には被災各地構成員からの報告や全国からの応援メッセージ、復興支援本部「ほっと phone」の案内、その後、今委員会引継ぎ後も、各事業報告や被災事業所の復興の様子を紹介するなど、「東北のいま」を伝え、災害を体験した構成員からの「これからの備え」などを発信してきました。

これまでの取り組みや、大規模災害後の情報発信の在り方、そして今なお県外避難も含め続く復興支援の状況について、どう風化を防止していくかなど、検証を続けていきます。　（三瓶　芙美）

☆本協会のウェブサイトでアーカイブを見ることもできます。ぜひご覧ください☆

【ご意見･ご感想をお寄せください】

本委員会では、構成員はもとより、3県の事業所や地域の皆さんとの交流を大事にしております。ぜひ、それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会ウェブサイト、事業所等にご紹介させていただきます（原則として投稿者氏名以外の個人情報は掲載いたしません）。投稿方法は FAX(03-5366-2993)もしくは E-mail:office@japsw.or.jp　にてお願いいたします。★題名に「PSW にゅうすについて」とご記入ください★

第 48 号　2020 年９月 15 日発行
編集：東日本大震災復興支援委員会
発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会
〒160-0015　東京都新宿区大京町 23-3 四谷オーキッドビル 7F　　TEL. 03-5366-3152　　FAX. 03-5366-2993
★URL　http://www.japsw.or.jp/　★東日本大震災復興支援サイト　http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html